

Rotary



R I 第 2820 地区 第 7 分区

竜ヶ崎ロータリークラブ 週報

一本日のプログラム

クラブフォーラム(社会奉仕) 小島(孝)社会奉仕委員長

一次回以降のプログラム

- 10/25 5分間卓話 大貫君、片平君、関口君、諸岡君
 11/1 祝事、5分間卓話 山崎君、渡利君、若井君、毛利君
 11/8 ローターリー財団月間に因んで 出前卓話
 11/15 5分間卓話 沼野君、中嶋君、寺田君、滝澤君



人類に
奉仕する
ロータリー

本日のロータリーソング「それでこそロータリー」
 どこであっても やあと言おうよ 見つけた時にゃ おいと呼ぼうよ
 遠い時には 手を振り合おうよ それでこそ ローローロータリー

第2771回例会記録 (2016年10月11日開催)

点鐘・ソング	佐伯会長 ・ 我等の生業
ゲスト	講談師 一龍斎貞鏡様、小野瀬文香様、糸賀文子様
会長報告 佐伯会長	<p>・10/4の理事会で下記の議案が承認されました。</p> <p>①11月のプログラム</p> <p>11/1 祝事、5分間卓話 11/8 R地区財団委員会の「出前卓話」 11/15 5分間卓話 11/22 0-列-創立記念日に関する卓話 11/29 5分間卓話</p> <p>②11/1(火) 末益事務局員が結城RC「心の授業」のピアニストとして出演する為、例会は幹事が対応する。</p> <p>③10/23(日)9:00～「たつこの杯柔道大会」へ5万円の支援。</p> <p>④10/16 ふれあい広場、10/23 たつこの杯柔道大会のメイクアップ。</p> <p>⑤中期計画検討委員会 委員選出 構成委員 10名 糸賀君、寺田君、秋田君、阿部君、岩田君、菊地君、沼野君、小島(律)君、滝澤君、佐伯君</p> <p>⑥ロータリー財団の寄付について 年次寄付 1人当たり130ドルとポリア20ドル 円換算合計 15,300円</p> <p>・本日、現況報告書を配布致しましたが訂正がございます。米山奨学金寄付者名簿欄の小島(律)君の累計額¥30,000→¥60,000</p>
幹事報告 石嶋副幹事	<p>・回覧: 財団ニュース9月号、米山記念奨学会「9月の寄付金傾向」 倉沢直前がバナー事務所より「鬼怒川水害義援金報告」</p>

委員会報告	会員 32 名、出席 27 名	出席率:84.38%
出席委員会		先々週の訂正出席率:93.75%
大賞委員長	欠席: 阿部君、工藤君、滝澤君、寺田君、関口君 メイクアップ: 龍ヶ崎中央RC(若井君、小島(孝)君)	
社会奉仕委員会	10/16(日)「ふれ愛広場」バザー: 開始時刻 10 時、終了時刻 14:30	
小島(孝)委員長	駐車場: 市民活動センター(旧馴柴小学校)、愛宕中学校、市役所 参加者はメイクアップになります。	

「講談師について」

講師 一龍斎 貞鏡(いちりゅうさい ていけい)様

今日は「講談」という仕事についてお話しさせていただきます。講談は落語、浪曲と並ぶ伝統三大話芸のひとつでございます。

「落語」というのは落ちる・語るという文字を使いますのでお終いに落ちがついた話のことで、落語をする人のことを“落語家”または“噺家”といいます。日曜日に「笑点」というテレビ番組がありますが、実は「笑点」は落語ではなく「寄席」の中の「大喜利」という余興のコーナーで、舞台上に並び上手い事を言って座布団を取ったり取られたりを致します。「落語」というのは舞台に一人で出てお喋りをし落ちを言って下がるという“一人の芸能”でございます。

「浪曲」はまたの名を「浪花節」といいますが、必ず隣に三味線を弾く師匠がいらっしゃいます。その三味線に合わせ浪曲師が立って歴史にまつわる話に節をつけて歌いながら(噺りながら)申し上げていく芸です。広沢虎造先生が大変有名でご存知の方もいらっしゃると思います。

では「講談」というのは本来「叩く・座る」と書いて「叩座(コウザ)」を設けて頂き、その上に”釈台“を置いて申し上げます。現在でも「講釈をする」という言葉が残っておりますが、“講釈をしながら申し上げていく”ということで、明治の始めまで「講釈師」と呼ばれておりました。今のように義務教育のなかった時代ですから誰もが文字の読み書きができるわけではなく、そういった方に向けて我々の祖先の講釈師が道行く人へ「太平記」「源平盛衰記」にはこういう事が書いてありますよと学校の先生のような役割で申し上げておりました。講釈をする際に前に置く台”講釈台“が短くなり”釈台“と言われるようになったわけです。今日はこの卓台をお借りしておりますが、本来ですと釈台を前に置いてお話し致します。「笑点」ですと司会の春風亭昇太師匠の前に置いてある台がそうです。もう一つ小道具があり「張り扇」という扇です。普通の扇子とは違い開くことは出来ません。厚紙の真ん中に竹を一本通し牛皮で縫い合わせたものです。これは手作りで毎年元旦の朝に作ることから講談師の一年が始まります。一年使った貼り扇は 12/28 に東京の薬研堀不動院というお寺で「貼り扇供養」をして、12/29、30、31は師匠の大掃除のお手伝いをし、また元旦の朝になると「貼り扇」を作り寄席に出かけていくのが講談師の一年の流れでございます。

「貼り扇」は落語、浪曲にはない小道具です。ではどう使うかと申しますと、前に置いてある釈台をパンパンと叩きながら、あたかもついさっき自分がそこで見ていたかのように嘘をつきながら、歴史にまつわる話を起承転結に沿ってお話しを申し上げる、これが我々「講談」という仕事なのでございます。主に叩くタイミングは場面転換です。例えば『夜が明ける…パッ』これで話の中でガラッと夜が明けてしまいます。『あっという間に 300 年の歳月が…パッパッ』300 年が経ってしまうという、このように大変便利な道具でございます。あとはリズムをつける為に「貼り扇」を叩いていきます。この講談の世界は入門をしますと現在のお笑いのよ



うに専門学校や通信教育はありません。楽屋から出てくる師匠の許に弟子入りをさせて下さいと頭を下げ、師匠がそこでいいよと言えば晴れてそこから入門が許されます。大体の場合一発目では断られます。というのもこの世界は水商売…売れるかもしれない売れないかもしれない、食っていくのは大変なことです。茨の道を歩むことはないと言われれば師匠方は必ず断ります。早い人で3ヶ月越し、長い人では10年越しでやっと入門を許されます。講談の場合入門をしてもまず教わるのが、口慣らしの「修羅場」というものです。落語ですと「寿限無」のような早口言葉のようなもので元々は仏教の修羅王に由来をされているそうですが闘いの場面のことを「修羅場」と申し上げます。ちょっとやってみます。

～「修羅場」を実演…大拍手～

これにより活舌を良くし腹式呼吸を鍛えるのです。マイクのなかった時代も腹式呼吸により100～200人いるお客様方の後ろまで届くよう鍛錬をするのです。今おわかりのように「修羅場」を読む時のリズムをつける為此のように「貼り扇」を叩きます。もう一つの使い道は、場合によって食事をした直後、私の講談をお聞き頂きますと、たまに子守唄に聞こえる方がいらっしゃいますので、そういう方をお見受けしましたらこちらから容赦なく…コラアと(笑)。ですが、大阪では本当に貼り扇を寝ている方がけて投げつけてしまうのです。この間も大阪の大きなホールで私の大先輩が講談をしている途中でウトウトされている方がいらっしゃって貼り扇を投げつけてしまい、手元に貼り扇がなくてどうするのだろうと見ていたら、やはりさすが大阪は笑いの本場で芸が細かく、ちゃんと「貼り扇」に紐がついており手繰り寄せて何事もなかったかのように続けて仰っていました。

「講談」をよく知らない方の中は、『講談って途中で笑ってはいけないんでしょ?』とか『講談って堅くて難しくて古臭い』という観念をお持ちの方が未だに多くいらっしゃって、中には睨みつけるようにお聞きになる方もいらっしゃると大変やりにくいです。「講談」というのはあくまでも大衆芸能ですが電気が出来てから伝統芸能と呼ばれるようになったのです(笑)。こういう様に皆様と一緒に作り上げていくのが「講談」「落語」「浪曲」なのです。

私は22歳の時に私の師匠にあたる八代目一龍齋貞山のもとへ入門を致しました。この師匠は私の実の父親でもあり、父のそのまた父親は七代目一龍齋貞山です。歌舞伎の世界はほとんどの場合が世襲制ですが講談師は世襲制ではなくこの400年の歴史の中で初めてだと言われています。やはり親、祖父の跡を継ぐというのは優遇される部分もありますが「いいわね」と言われることもあり、人一倍努力しなければならないと毎日感じております。22歳までは全く講談の世界に興味がありませんでした。父は昼から夜遅くまで、土日祝日も講談会や演芸会に出かけますから父との会話はほとんどなく、父の部屋にも入ったことはありませんでしたから「講談」というのはどういうものなのか全く知らずに育ちました。ですから高校を卒業後は英文科に進学し20歳の時カナダに留学致しましたがそこで日本のことを何も知らずお国自慢を何もできなくて悔しい思いをしたのです。帰国した時ちょうど父の講談が怪談話だったものですから、怪談なら聞きやすいかもとふと親友と初めて父の講談会に行ったのです。その時は日本三大怪談「牡丹灯籠」の由来話してございました。私はテレビ世代ですから映像が先に入ってくるので、頭を働かせなくても見て楽しむことができます。しかし講談を聞いて講談師の口から紡ぎ出される言葉が頭の中で世界を作り上げていくという感覚を初めて覚えたのです。他の女性の講談師が大変綺麗に着物を着こなしている様子も格好いいなと思い、その晩すぐに私講談師になりたいと言いました。しかし父は大学まで出したのにと激怒しましてダメだと言われ続けたのですが2年越しの22歳の1月に入門を許されました。現在講談師の数は全国に70人しかおりません。その内女性が過半数の40人おります。

「講談」には色んな分野の話があります。合戦、武芸ものと呼ばれるものや宮本武蔵、大岡越前、水戸黄門、あとは良妻賢母の山之内一豊の妻千代さんの話し等の歴史話し。夏場は怪談話し、新作で社長の一大事等、

逸話を基に肉付けをしていって色々な表現ができます。もし機会がありましたらまたご縁を繋げて頂けたら嬉しいと思っております。折角ですので短い時間になりますが「講談」とはどういうものなのか申し上げたいと思います。

～「赤穂浪士忠臣蔵」を実演…大拍手～

今日は特別に 50 分かかりますところをダイジェスト版で 5 分にお取次ぎ申し上げました。誠にありがとうございました。

10/16 (日) ふれあい広場 バザー 於：龍ヶ崎市文化会館



10 時の開場待ちで 長蛇の列ができました。 20 人以上のメンバーの参加でした。

物凄い勢いの買い物客で開始 20 分でほとんどの品が売れてしまいました。



スマイルボックス

生きているだけでも幸せ♪ その上にうれしいことがあったなら、スマイルボックスへどうぞよろしく♪

糸賀君 ¥3,000 家族例会に妻も出席させて頂きました。又、坂本君から孫の写真を頂きありがとうございました。

山崎君 ¥2,000 結婚記念日祝いを頂くことになりました。

小島(孝)君 ¥1,000 週報に写真が載りました。

岩田君 1,000 週報に写真が載りました。

北君 ¥1,000 R.B.会のゴルフで渡利君に送迎して頂きお世話になりました。

ご芳志の寄金、ありがとうございました。

小計	5 件	¥ 8,000
累計	124 件	¥ 690,525

例会を欠席される方は**当日午前 10 時までに糸賀副SAA (電話 090-1619-2899)**に必ずご連絡ください。

RI第 2820 地区・第 7 分区

竜ヶ崎ロータリークラブ

創立:1959 年 11 月 25 日

☆会長・佐伯優 ☆幹事・滝澤健一 ☆SAA・毛利昭男

☆ 例会場:常陽銀行竜崎支店2階 〒301-0011 竜ヶ崎市横町 4209 電話 0297-62-2112

☆ 例会日:火曜日・12:30~13:30

URL: <http://ryugasaki-rc.org/>

☆ スポンサークラブ:土浦ロータリークラブ

☆ 姉妹クラブ:仙台東ロータリークラブ